



〔評者〕

齋藤 秀輝

聖隷浜松病院循環器科医長

うし先生と学ぶ 「循環器×臨床推論」が 身につくケースカンファ

上原 拓樹 著
佐藤 宏行 監修

●B5 頁196 2025年3月

定価：5,500円（本体5,000円＋税10%）

[ISBN978-4-260-05785-1] 医学書院刊



心不全なのか、不整脈なのか、虚血なのか、循環器内科医はついつい“疾患”と向き合ってしまう。それぞれの疾患には疾患ごとのガイドラインが日本循環器学会などから発表されており、勉強することで理解が深まる。だが、現実の患者さんはそんなに単純ではない。患者さんの社会的背景、経済的背景、多併存疾患（マルチモビディティ）、リアルな現場では考慮すべき問題が山積みであり、臨床医としてそのような問題を1症例ごとに向き合うことで、机上の空論で学ぶだけでは得られない経験を得ることができる。

本書は“目の前の患者さんと真摯に向き合う”という、うし先生の姿勢が溢れるほど詰まった一冊である。全部で24症例、リアルな現場で経験する流れをそのままに、うし先生と後輩のぺん先生・いぬ先生による臨床推論カンファレンスがリズムカルに繰り広げられ、読み始めるとすぐにうし先生

ワールドへの仲間入りだ。

循環器内科医は状態の悪い患者さんの初期対応を行うことも多く、スピード感をもった診断が救命への第一歩につながる。現実の診療に即してうし先生が順を追って解説してくれることで、そんなスピード感も本書では感じさせてくれる。第1章が日中編、第2章が夜間編と経験する場面ごとに分かれており、症例によっては最初に心電図だけ提示されたり、他科外来で相談された時点でのスタートであったり、よりリアルな現場感を感じさせる症例ばかりだ。

循環器内科をこれから回る研修医、循環器研修をまさにこれから開始する専攻医、循環器をもっと学びたいジェネラリストや実地医家の皆様にぜひオススメしたい一冊。うし先生と一緒に『循環器×臨床推論』ケースカンファレンスで循環器の知識を深めましょう！